

令和6～7年度特集展



新発見 速報展2025

解説資料



教えて！レキシカ先生！

下郡遺跡群第152次4区調査区全景(北より)

令和7年 **1月15日(水)** **5月25日(日)**
会場 大分県立埋蔵文化財センター企画展示室

主催／大分県立埋蔵文化財センター

後援／大分合同新聞社・NHK大分放送局・OBS大分放送・TOSテレビ大分・OAB大分朝日放送



大分県立埋蔵文化財センター
TEL 097-552-0077 FAX 097-552-0700



〒870-0152 大分県大分市牧緑町1-61
E-mail a31720@pref.oita.lg.jp
<https://www.pref.oita.jp/site/maizobunka/>

上田原東遺跡 (豊後大野市三重町上田原)

調査年度： 令和2年(2020)

調査原因： 県道三重新殿線道路改良事業

遺跡の年代： 縄文時代～中世

上田原東遺跡は大辻山-牟礼岳山塊の北西に張り出す台地上に所在し、大野川を眼下に見下ろし、三重盆地の北端を押さえる要衝の場所にあたります。

発掘調査の結果、縄文時代後期後葉～晩期後葉、弥生時代中期～後期初頭、古墳時代前期後半、古墳時代後期後半の4つの時期を中心に、竪穴建物をはじめとした多数の遺構や遺物が確認されました。中でも、これまで県内でほとんど確認されていなかった、縄文時代晩期後葉の竪穴建物 11 棟や、遺跡の南に位置する立野古墳 (4世紀後半の前方後円墳) とほぼ同時期の集落を初めて確認することができました。



4区完掘状況(東から)



縄文土器 深鉢(晩期後葉)

おしえて!

レキシカ



上田原東 part 1

大分県初の新発見! 縄文人はアズキを食べていた?

上田原東遺跡から出土した種実圧痕の可能性のある土器 55 点について、X 線 CT による土器圧痕調査を行いました。

調査の結果、縄文時代後期末の土器からアズキ亜属、古墳時代後期の土器からイネの圧痕を検出しました。縄文時代後期のアズキの検出は大分県で初めての事例です。

これらの結果から、縄文～古墳時代の県内の植物栽培や食料の解明につながるヒントを得ることができました。



アズキを検出した縄文土器



分析画像提供：熊本大学文学部小畑弘己研究室

おしえて!

レキシカ先生

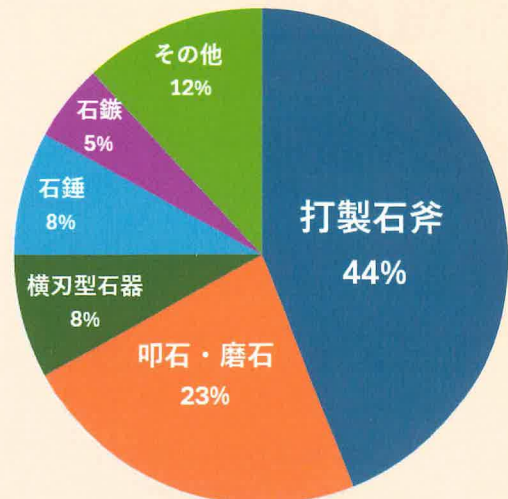
上田原東 part 2

石器からよみがえる 縄文人の生活様相!

横の円グラフは縄文時代の遺構から出土した石器の組成です。上田原東遺跡の石器組成の特徴として、石鏃の少なさが挙げられます。同じく狩猟・解体具である石匙は出土しておらず、生業における狩猟の比重の低さをうかがわせます。

一方、組成の約半数を占める石器が打製石斧です。次いで、堅果類等の粉碎・加工具である叩石・磨石類、収穫具である横刃型石器、漁撈具である石錘と続きます。打製石斧は土掘り具、植物栽培に関する農耕具とする見解があり、九州で縄文時代の遺跡が急増する後期以降に多く出土します。石器組成からみえる生業としては植物栽培が主で、漁撈、狩猟はそれを補完するものであったことが分かりました。

上田原東遺跡ではアズキの圧痕のある縄文土器が出土しており、こうしたマメ類の栽培が行われていた可能性を示しています。



上田原東遺跡縄文時代遺構の石器組成



出土した打製石斧

おしえて!

レキシカ先生

上田原東 part 3

カマドを廃棄した際の 祭祀遺構が見つかった?

上田原東遺跡で出土した古墳時代後期の竪穴建物のうち、6棟でカマドが造られていました。これらのカマドでは、引越しの際に祭祀を行ったのち、カマドを封じていました。発掘調査によって明らかになったカマド封じのプロセスを説明します。

- ①カマドを廃棄する際に、袖部に渡してあった天井部の石材を床に下ろします。
- ②燃焼部やカマドの周囲に土器甕や甑を置いて祭祀行為を行います。
- ③カマド全体を土で埋めます。この上に扁平な板石を置いて封じる例もあります。



カマド袖部検出状況(プロセス①・②)



カマド検出状況(プロセス③)

下郡遺跡群（大分市下郡）

下郡遺跡群は、大分川東岸の標高4～6mほどの自然堤防上に位置します。下郡遺跡群ではこれまでに大分市教育委員会により、土地区画整理事業に伴う発掘調査が行われました。その結果、弥生時代から近世にいたるまで長い間集落地として利用された、広大な面積をもつ複合遺跡であったことが分かっています。

第151次調査

調査年度：令和5年(2023)

調査原因：都市計画道路庄の原佐野線街路改良事業

遺跡の年代：弥生時代～近世

下郡遺跡群第151次調査では、弥生時代・中世・近世の3時期の遺構が確認されました。なかでも、近世では3基の土坑墓が見つかり、中から早桶はやおけの材料や人骨が出土しました。また、ウシまたはウマとみられる動物の骨や歯も出土しています（時期不明）。



動物の骨と歯の出土状況



弥生土器出土状況

第152次調査

調査年度：令和5年(2023)

調査原因：都市計画道路庄の原佐野線街路改良事業

遺跡の年代：弥生時代～近世

下郡遺跡群第152次調査では、弥生時代・中世・近世の3時期の遺構が確認されました。中でも、JR豊肥本線近くの調査区では弥生時代の竪穴建物や、古代の掘立建物が検出され、この辺りが安定した居住区域だったことが分かりました。



下郡遺跡群(152次)の全景写真



下郡遺跡群(152次) 弥生土器 壺

ヲンタイ遺跡 (宇佐市)

調査年度：令和5年(2023)

調査原因：県道中津高田線道路改良事業

遺跡の年代：中世

ヲンタイ遺跡は^{やっかんがわ}駅館川西岸の^{ちゅうせきへい}沖積平野に位置し、古代から宇佐神宮の荘園「江島別符」にあたる場所です。

発掘調査の結果、土坑墓、掘立柱建物跡、土坑などの遺構が見つかりました。各遺構から、中世の陶磁器や瓦器碗が出土しており、13世紀後半から14世前半頃に集落が営まれたと考えられます。他にも、時期は不明ですが、管状土錘やタコ壺等の漁具が出土しています。



ヲンタイ遺跡出土 瓦器碗



ヲンタイ遺跡 調査区空中写真

おしえて!

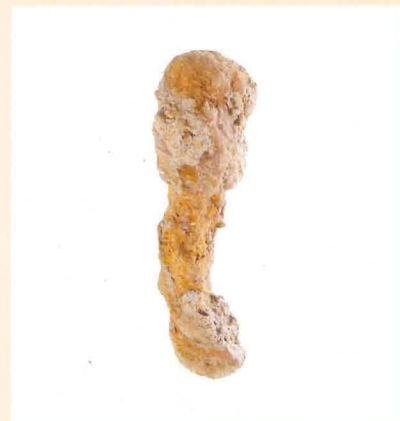
レキシカ先生

中世のお墓の副葬品って
なにが入れられていたの？

ヲンタイ遺跡の調査区中央部分で土坑墓を確認しました。中世墓の大きさは長軸約1.5m、短軸約0.7m、検出面からの深さは約0.2mでした。出土遺物は土師器皿・瓦器碗・青磁碗の破片とともに、鉄釘が20本程度出土しています。鉄釘は出土状況から、遺体を安置した木棺の板材を組み合わせるために使用したと考えられます。青磁碗は13世紀後半から14世紀頃の中国の龍泉窯産のものです。また、土坑墓は掘立柱建物跡の近くに造られているため、屋敷を所有する人が葬られた「屋敷墓」と考えられます。



土坑墓検出状況



出土した鉄釘

中世大友府内町跡第163次 (大分市長浜町)

調査年度：令和5年(2023)

調査原因：大分森林管理署新営工事

遺跡の年代：中世

中世大友府内町跡は、大分川河口部左岸の自然堤防上に立地しています。鎌倉～戦国時代に豊後を支配した大友氏の館を中心に形成された都市遺跡です。163次の調査区は、大友氏館跡から北へ約700m、今在家町の裏手と推定されている場所にあたります。

発掘調査の結果、火災処理に伴う廃棄土坑などから16世紀代の土師器や中国産などの陶磁器が多量に出土し、中世大友府内町の生活様相の解明をたどる成果を挙げることができました。



中世大友府内町跡(163次)出土 華南三彩



中世大友府内町跡(163次) 完掘状況

おしえて!

レキシカ先生



火災処理遺構が語る 豊薩合戦の痕跡とは!?

中世大友府内町跡第163次調査では、長方形に近い不定形の土坑が見つかりました。熱を受けた中国産陶磁器や、焼けた建物の土壁が出土したことから、火災に見舞われた建物や生活の道具を埋めるために当時の人々が穴を掘ったと考えられます。出土遺物の年代が16世紀後半を中心とすることから、豊薩合戦に伴う火災処理土坑の可能性が考えられます。



S204 土坑(火災処理土坑) 土層断面(北から)



▲土坑から出土した焼けた陶磁器

ひと つ まつ じょう あと
一ツ松城跡 (中津市一ツ松)

調査年度：令和5年(2023)

調査原因：都市計画道路外馬場錆矢堂線改良工事

遺跡の年代：中世・近世

一ツ松城跡は、山国川下流の沖積地「沖代平野」に立地している中世城館跡です。調査地は宅地化が進行しており、現状では確認されていません。

発掘調査の結果、江戸時代(19世紀代)の井戸跡をはじめ、宇佐で作られた高村焼の鉢や肥前産陶磁器などの遺物が出土しました。一ツ松城に関する遺構は見つかりませんでしたが、少量ながら16世紀代の遺物が出土しており、城館が近世の集落へと変貌した状況がうかがえました。



井戸半截状況



高村焼捏鉢 (19世紀)

おしえて!

レキシカ先生



風炉の発見が 城跡発見の手がかり?

一ツ松城跡から出土した瓦質土器風炉は、胴部下半から脚部の破片で、外面に七宝文、蓮弁文を装飾しており、年代は15～16世紀代のものです。風炉は、茶の湯で湯を沸かすための炉で、都市遺跡・城館から出土する傾向があります。こうした特徴的な遺物が一ツ松城が存在していたことを証明する手がかりになるかもしれません。



出土した瓦質土器風炉



風炉の装飾 (七宝文) 拡大



同時開催 企画展・講座

歴史体験学習行事

企画展

犬形土製品と中世のいのり

令和7年 2月11日(火) >> 5月25日(日)

企画展示室



考古学講座 5

犬形土製品と中世のいのり

日時 2月19日(水) 13:30~15:00 ※予約不要
場所 大分県立埋蔵文化財センター3階 第2講座室

ジュニア考古学講座 参加費 無料

親子で鑄造体験

~石けんで銅鐸・銅鏡をつくろう!~

日時 2月1日(土) 13時~15時※所要時間2時間
対象 小・中学生(保護者同伴)
定員 8組(保護者1名を必ず含む)
※電話予約先着順 定員になり次第締め切ります。
※汚れてもよい服装、もしくはエプロン等をお持ちください。



犬形土製品チョコ作り体験
2月15日(土)

■1回目 10時~
■2回目 13時30分~
※所要時間1時間半

参加費 無料
定員 各回12組

※電話予約先着順 定員になり次第締め切ります

